

## 技術・計画検討委員会 検討資料

(P I 意見の概要及び意見への対応について)

(公共交通による1時間圏域の構築について)

平成27年8月21日

沖縄県

# 目次

1. 県民意見について	・ ・ ・ ・ 1
1-1 県民意見の概要	・ ・ ・ ・ 1
1-2 県民意見への対応	・ ・ ・ ・ 1
2. 公共交通における1時間圏域の構築について	・ ・ ・ ・ 2
2-1 県土の圏域構造の構築	・ ・ ・ ・ 2
2-2 沖縄らしい優しい社会の構築を支える交通体系の確立	・ ・ ・ ・ 3
2-3 公共交通を取り巻く課題	・ ・ ・ ・ 4
2-4 将来像実現に向けた公共交通ネットワークの課題	・ ・ 5

## 1. 県民意見について

### 1-1 県民意見の概要

- ①「沖縄本島の将来の姿」については多くの県民から、県土の均衡ある発展や観光・経済振興、交通弱者等の移動手段の確保等を期待する意見が寄せられ、一定の情報共有が図られたものと考えている。
- ②一方、沖縄本島における陸上交通の構造(将来像)については、ビジョン(那覇と名護間の公共交通における1時間圏域の構築)がわかりづらいとの意見が寄せられた。

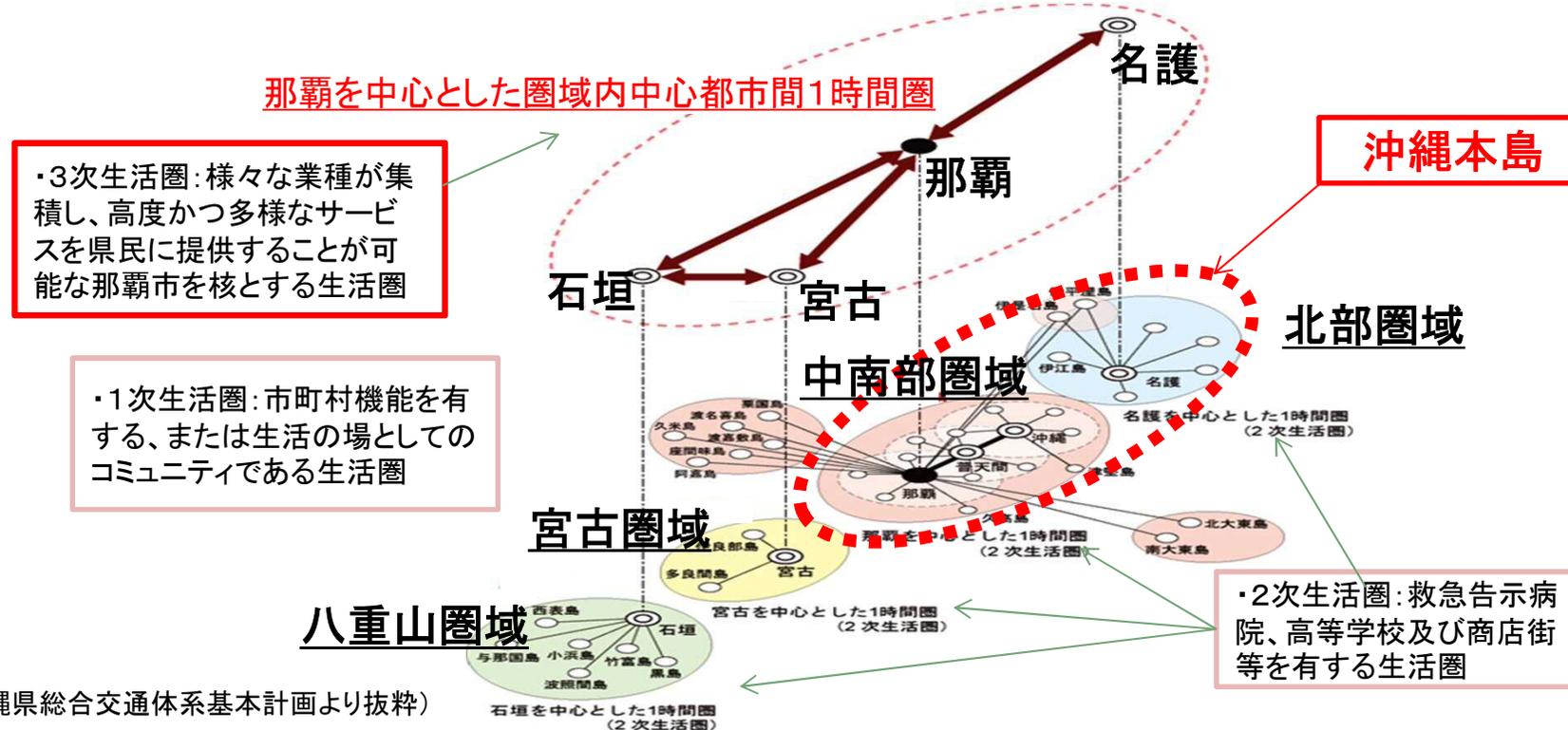
### 1-2 県民意見への対応

「公共交通における1時間圏域の構築」については、県民の理解を深めていただくため、改めて情報共有を図っていく。

## 2. 公共交通における1時間圏域の構築について

### 2-1 県土の圏域構造の構築

- ・ 県土全体において高水準な都市機能を提供するため、県土構造を階層構造として捉え、**3次生活圏の核として広域交流拠点**を有する那覇と、**2次生活圏の圏域中心都市（名護、宮古、石垣）**との移動時間を1時間とする圏域構造の構築を図る。
- ・ 圏域間の連携を強化することにより、広域的な課題解決を図りながら、それぞれの地域資源の広域的活用によって地域の個性や特長を伸ばすことにより、県全体を牽引する力強い地域圏を形成し、県の総合的な発展を図る。



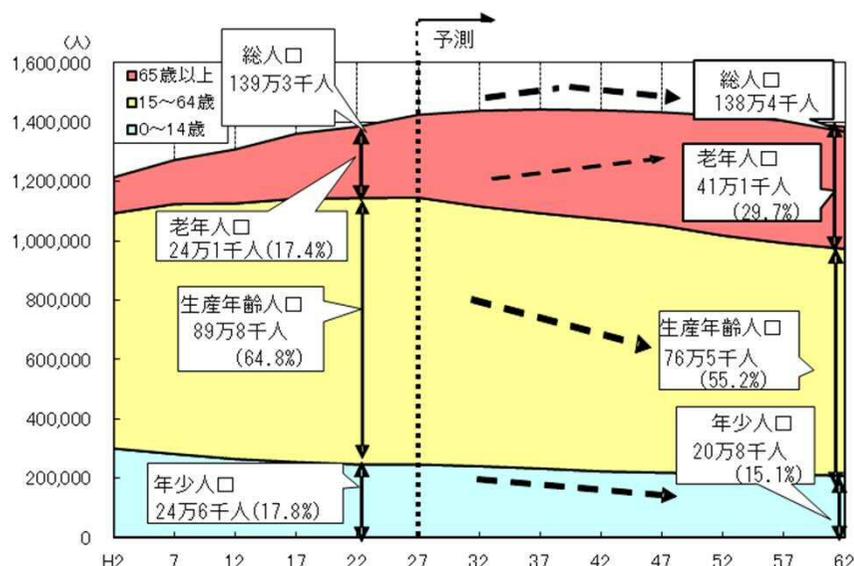
## 2-2 沖縄らしい優しい社会の構築を支える交通体系の確立

今後の本格的な高齢社会への対応、外国人を含む観光客など誰もが車に頼らなくても移動できる公共交通ネットワークの構築が求められている。

### (1) 高齢社会の到来

全国に比べて少子高齢化の傾向が緩やかな沖縄においても、平成27年には、総人口の約3割が65歳以上となる。

沖縄県の人口の推移・予測

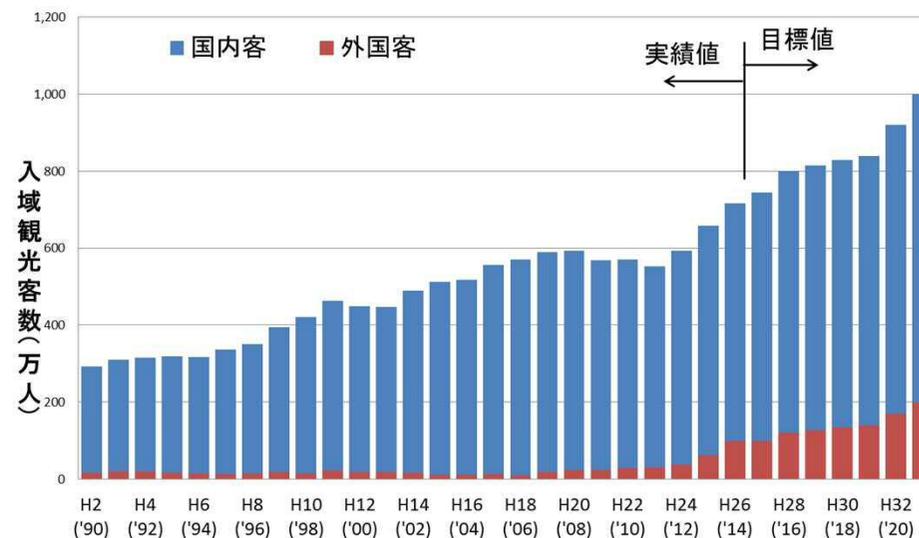


資料: H22以前は「国勢調査(総務省)」、  
H27以降は「社会経済展望値関連資料(県企画調整課)」

### (2) 観光客の増加

沖縄県は入域観光客1千万人を見据えた取組を進めており、平成26年度は717万人に達した。うち外国人は98万人で、前年度+57%の大幅増となっている。

入域観光客数の推移



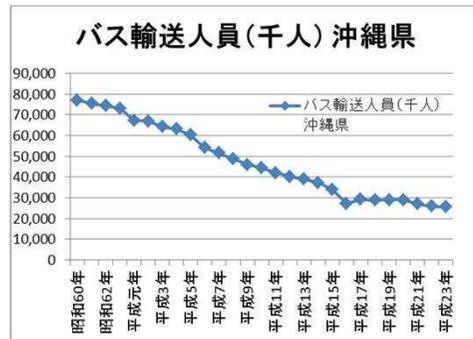
データ:【実績値】観光要覧より(県観光政策課)  
【目標値】沖縄観光推進ロードマップ(県観光政策課)

## 2-3 公共交通を取り巻く課題

### 自動車利用の急激な増加による公共交通への影響

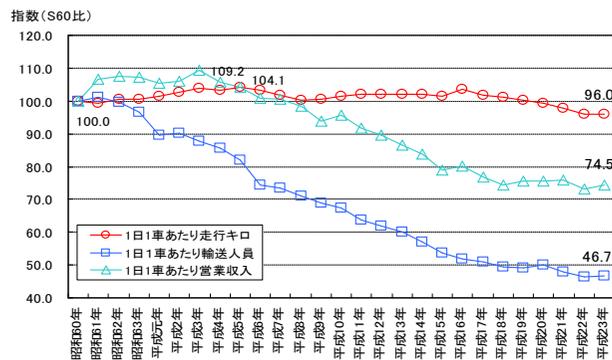
- ①現在のバス路線は長大で複雑
- ②慢性的な交通渋滞によるバス交通の定時性低下
- ③定時性・利便性低下によるバス利用者の減少により、路線の維持が困難
- ④高齢者を含めた県民の足の確保には、バス交通の活性化が必要

#### (1) 沖縄本島のバス利用者 昭和60年の約33%



#### (2) バス交通の運営

車両1車あたりの営業収入は昭和60年の約47%



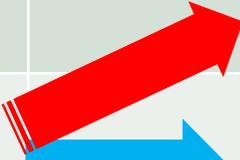
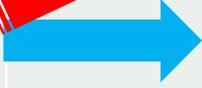
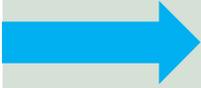
## 2-4 将来像実現に向けた公共交通ネットワークの課題

現在のバス路線については、長大で複雑、交通渋滞による速達性・定時性が低い

- 1) 骨格性、速達性、定時性の機能を備えた公共交通の基幹軸確保が課題
- 2) 体系的でわかりやすい公共交通ネットワークの構築が課題

### ■公共交通の課題

- 1) 公共交通による那覇・名護間1時間圏域の構築
  - 2) 利便性の高い公共交通ネットワークの構築
- ア. サービス水準

既存公共交通		将来像
		新たに60分以内の速達性の高いサービスの提供(基幹軸)
那覇空港→名護のバス交通 ・一般道路利用 約160分 ・高速バス 約90分	 	約160分 約90分
沖縄本島の公共交通(バス交通)は長大で複雑でわかりにくい		基幹軸とLRT, BRT(バス交通)で体系的でわかりやすい公共交通ネットワークを構築



イ. 公共交通による1時間圏域構築で期待される将来の姿

北部：名護の拠点化、雇用・定住化促進、観光など産業の活性化

中南部：慢性的な交通渋滞緩和、コンパクトな集約型市街地形成、高齢者を含む県民・観光客の移動利便性向上（買物、通勤・通学、通院等）